（別紙3）

公表　事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	放課後等デイサービス　まめの木 the1st			
○保護者評価実施期間	令和　7　年　4　月　1　日	～	令和　7　年　4　月　30　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	31名	（回答者数）	21名
○従業者評価実施期間	令和　7　年　4　月　1　日	～	令和　7　年　4　月　30　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8名	（回答者数）	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和　7　年　5　月　7　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心・安全・安定の環境作りを徹底しているところ。	安心できる環境を整えるために、まずは職員との信頼関係の構築を図ります。子どもの気持ちに寄り添い、共感し、子どもの気持ちを認めてあげることを意識して声掛け、支援しています。	子どもたちが安心してまめの木に通うことができるよう、その日にあったできごとはその日のうちに解決し、次のまめの木の来所を楽しみにしてもらえるようにします。いつでも安心、いつも安全、いつもの安定を目指します。
2	子どもたちへの気持ちに寄り添う声掛け、支援の徹底をしているところ。	子どもたちへの声掛け、支援の仕方を常に意識し、それぞれの子どもの発達や支援計画の目標に応じて声掛け、支援の方法を変えています。	職員が共通の意識で支援できるように、毎月1回以上は研修を行い、職員の支援、声掛けの向上を図っています。
3	子どもたちの神経や反射にアプローチするトレーニングを毎日実施し、感覚統合を促しているところ。	毎日の帰りの会でトレーニングを実施し、そのトレーニングにより変化があったかどうかを職員や子どもたちと話し合う場を設けています。	子どもによってどのように変化したのか、また変化が少ない場合はどのようにトレーニングしていくのかなど話し合い、子どもたちが過ごしやすくなるようにトレーニングを続けていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男性職員が少ないところ。	職員の約1割しか男性職員がいないので、子どもたちが高学年になってきたときに男性でしか分かり合えない気持ちがあったり、ダイナミックに活動したい時に思い切って遊んだりしたいのではないかと考えます。	子どもの気持ちに寄り添い、共感してくれるような優しい男性職員を募集しています。
2	保護者が私たち職員の支援の様子を見る機会が少ないところ。	送迎を利用する子どもがほとんどなので、実際に私たち職員が支援している姿を保護者が見る機会が少なく感じます。	保護者も一緒に過ごしていただけるイベントの実施や、保護者の皆さんにも参観してもらうなど,家庭とまめの木とで一緒に子どもの発達を促していきます。
3	タイムスケジュールが決まっていないところ。	その日、その日の子どものメンバー、子どもの体調、子どもの様子、また天気などにより当日、あるいは前日にスケジュールを決めることが多く、前もって知っておきたい子どもにとっては利用しにくい環境にあると言えます。	できる限り早めにある程度のスケジュールの設定をして、細かな時間の配分も考えておくことができるようにしていきます。